第２回　四国地方整備局
事業評価監視委員会説明資料

資料－４－２－１

一般国道５６号
土佐市（とさし）バイパス

（事後評価）

令和元年10月11日

国土交通省四国地方整備局

1. 事業の目的と概要（１）

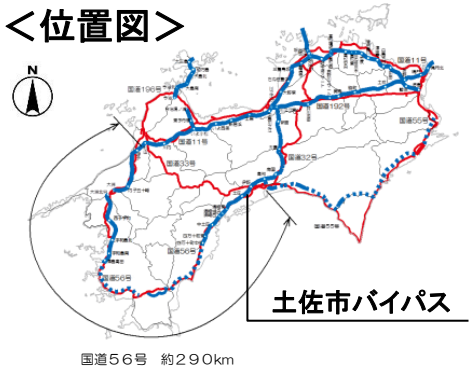
■ 事業目的

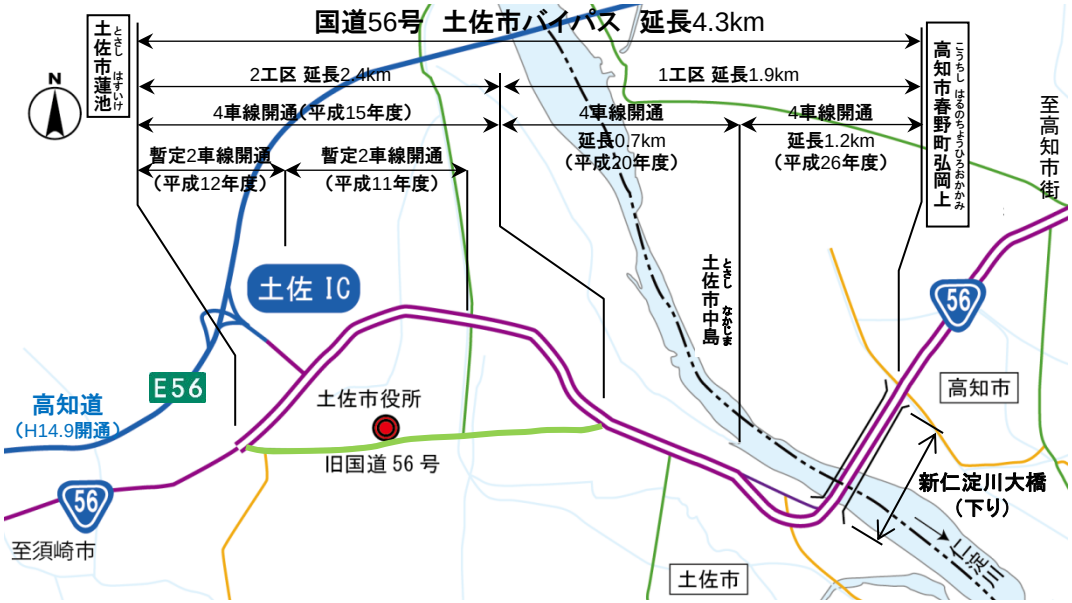
・土佐市内の交通混雑の解消および交通事故の防止を図り、安全かつ円滑な交通を確保
・四国横断自動車道土佐ICへのアクセス機能を併せ持つ路線として整備

■ 計画概要

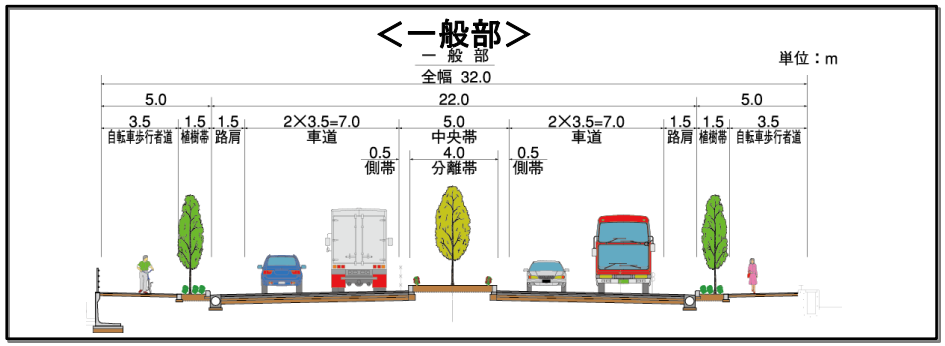
項目		内　容
事業名		一般国道56号　土佐市バイパス
起終点		高知市春野町弘岡上～土佐市蓮池
延長、幅員		延長 4.3km　、　幅員 32m
構造規格 設計速度等		第4種第1級　、　4車線 設計速度 60km/h
事業の経緯	事業化	平成元年度
	都市計画決定	昭和63年度
	用地買収着手	平成6年度
	工事着手	平成9年度
	開通年	平成26年度（全線開通）

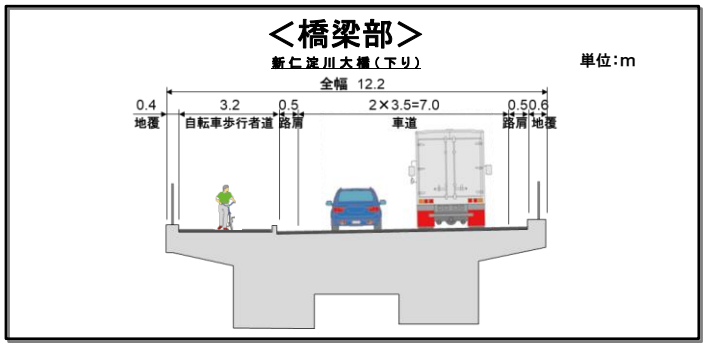
＜位置図＞





■ 標準断面図





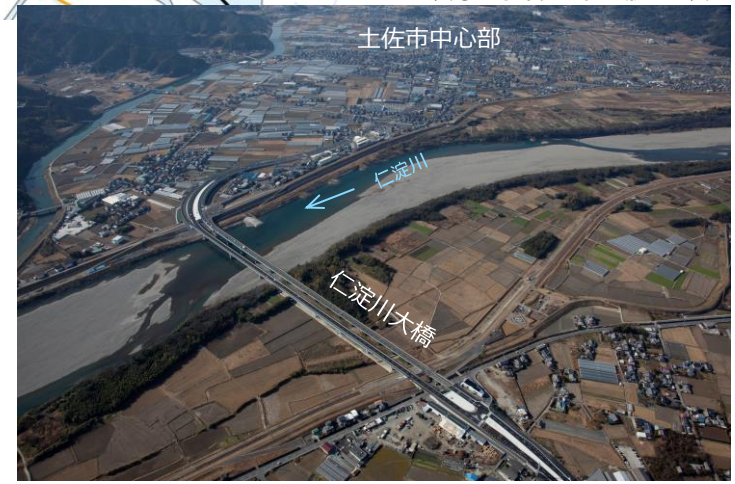
1. 事業の目的と概要（２）

・2工区は平成15年度、1工区は平成26年度に完成供用している。

■ 事業経緯

▲写真①　事業中の交通状況（土佐市付近）

▼写真②　事業完成後の航空写真



供用年月	暫定２車線	H12.11 (2/4)	H12.3 (2/4)	H16.2 (4/4)	H21.2 (4/4)	H26.11 (4/4)
	完成４車線	H16.2 (4/4)	H16.2 (4/4)			
		バイパス区間			現道拡幅区間	

2. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

■ **当初計画と開通後の比較**

＜一般国道56号　土佐市バイパス＞

	当初計画 （H19年度※1）	開通後	変化及びその要因
道路構造等	第4種第1級　60km/h 延長1.9ｋｍ、4車線		変化なし
	第4種第1級　60km/h 延長2.4ｋｍ、4車線		変化なし
総事業費	387億円	361億円	橋梁幅員の減少、橋梁基礎形式の変更、構造物のプレキャスト化等によるコスト縮減（▲26億円）
交通量	17,000～ 28,200台/日	16,200～ 28,600台/日 （16,500～ 24,900台/日）	・H19交通量は、H11全国道路・街路交通情勢調査ベースでの推計値 ・開通後の交通量は、H27全国道路・街路交通情勢調査結果 ・開通後の（　）内の交通量は、H22全国道路・街路交通情勢調査ベースでの推計値
事業期間	H元年度 ～H28年度	H元年度 ～H26年度	橋梁基礎形式の変更、擁壁工から盛土構造への変更、構造物のプレキャスト化による工期短縮
費用便益比 （B/C）	1.5	1.4	・基準年の変更（H19、R1） ・費用便益分析マニュアルの改訂

※1　平成元年度事業化で新規事業採択評価を行っていないため、参考値として最初の再評価の結果（平成19年度）の値を記載

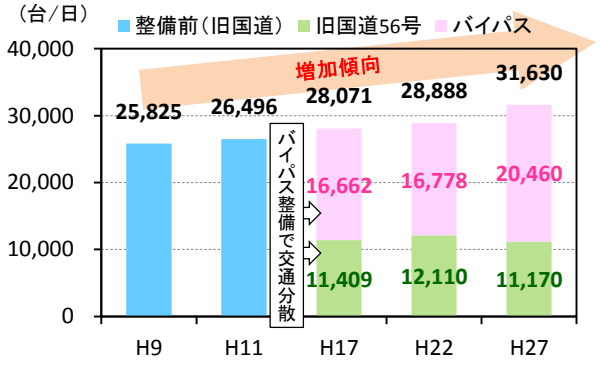
3. 土佐市バイパスの利用状況

・土佐市バイパス全線完成4車線開通により、旧国道では混雑が緩和され、断面交通量が増加傾向。
・バイパス区間においては、通過交通と市街地発着交通の分散が図られ、旧国道の交通環境が向上。

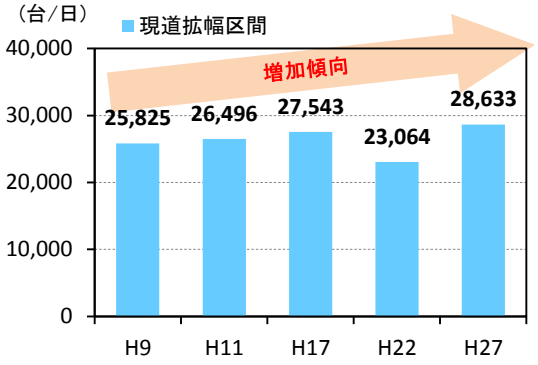
交通量の推移

②バイパス区間の断面交通量

※土佐市高岡の国道56号と県道土佐伊野線（旧国道）の交通量



①土佐市芝地区の交通量



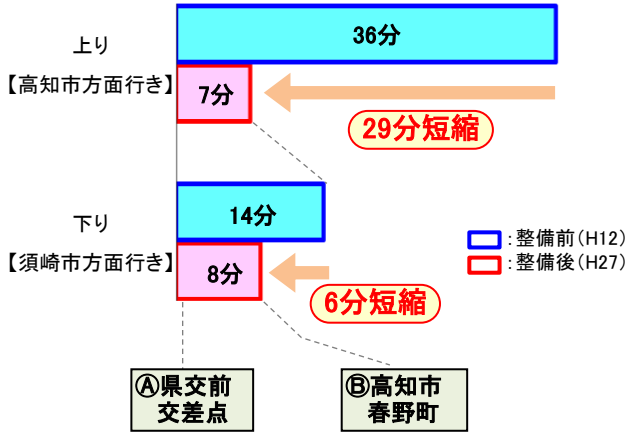
資料：H9・H11・H17・H22・H27交通量：全国道路・街路交通情勢調査

4. 事業効果の発現状況　交通混雑の緩和

・土佐市バイパスの段階的な供用により、周辺部の**渋滞が大幅に緩和**。
・事業区間の所要時間についても完成供用により**所要時間が上り線で29分（8割）短縮**。

渋滞解消と旅行速度の向上

土佐市バイパスの所要時間の変化

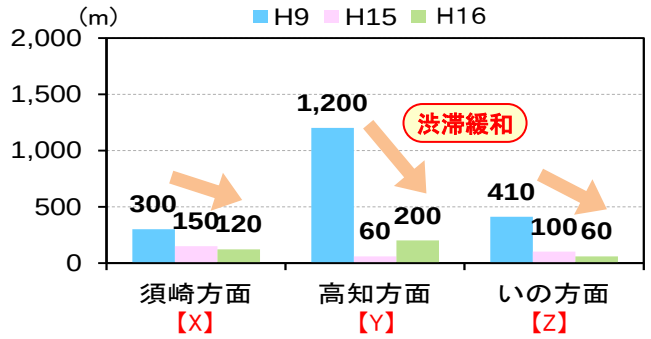


資料：H12土佐市バイパス渋滞作業（調査日：6/6）
H27全国道路・街路交通情勢調査

最大渋滞長の推移

※調査日における最大渋滞長

①高岡交差点



②中島交差点

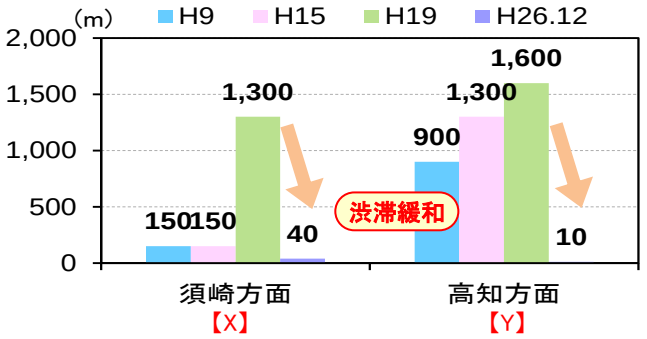


写真　整備前の旧国道

4. 事業効果の発現状況　安心・安全の向上

・歩道未整備区間に**両側歩道を整備することで、歩行者等が安全に移動できる空間を確保**。
・土佐市バイパスの完成により、小学校周辺の道路の交通量が減り、**児童の交通安全面が向上**。

安全で快適な道路空間の実現

歩行空間の確保

整備前

歩道が未整備のため、安全性の確保が課題

整備後

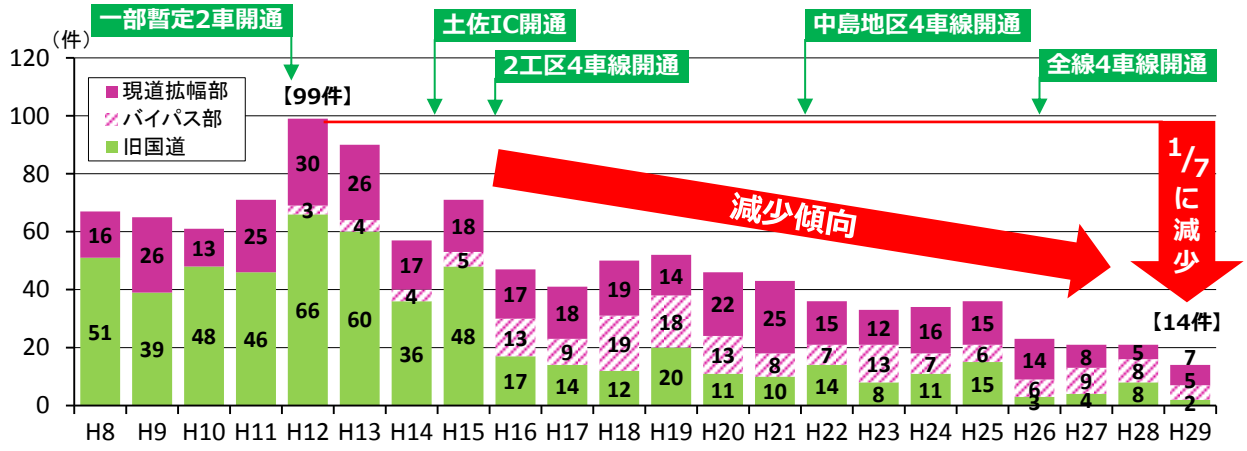
歩道整備により、安心・安全な歩行空間・自転車通行空間を確保

・土佐市バイパスの整備により、学校周辺の**抜け道となっていた道路等の交通量が減少**したと思う。**児童の通学は以前に比べ安全**になった。

学校関係者（H31.2　ヒアリング結果）

土佐市バイパス交通事故件数の推移

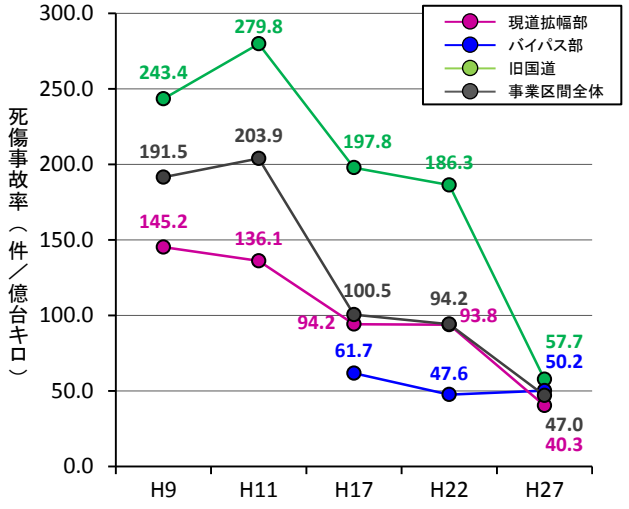
※国道56号土佐市バイパスと旧国道区間の死傷事故件数を集計



資料：ITARDAデータ

土佐市バイパス死傷事故率の推移

※ 死傷事故率は、交通量調査年毎に算出



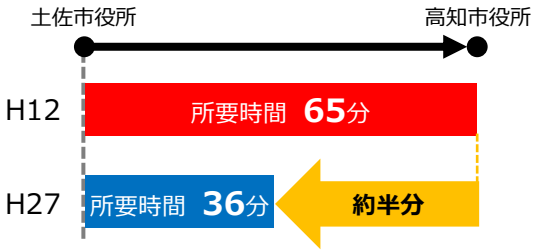
資料：ITARDAデータ
交通量調査データ

4. 事業効果の発現状況　地域連携・救急医療に貢献

・地域の人口減少が進む中、都市間の機能分担及び連携が促進され**地域の魅力に貢献**。
・土佐市は、医療施設の充実した**高知市内の病院への救急搬送が増加**しており、バイパス整備により、**搬送時間が短縮、傷病者への負担を軽減**。

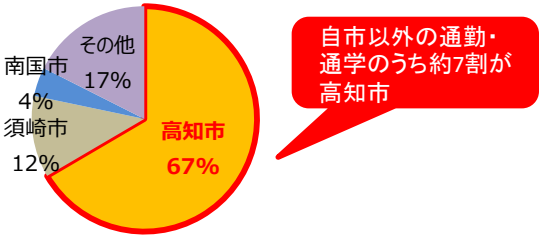
土佐市・高知市の連携

土佐市役所から高知市役所の所要時間

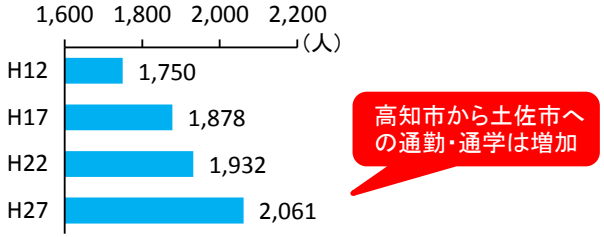


資料：事業区間～高知市役所　H27全国道路・街路交通情勢調査、
事業区間内（H12）の所要時間H12.6.6高知河川国道事務所
調査結果よりピーク時間旅行速度を基に算定

土佐市常住者の通勤・通学先（自市内は除く）

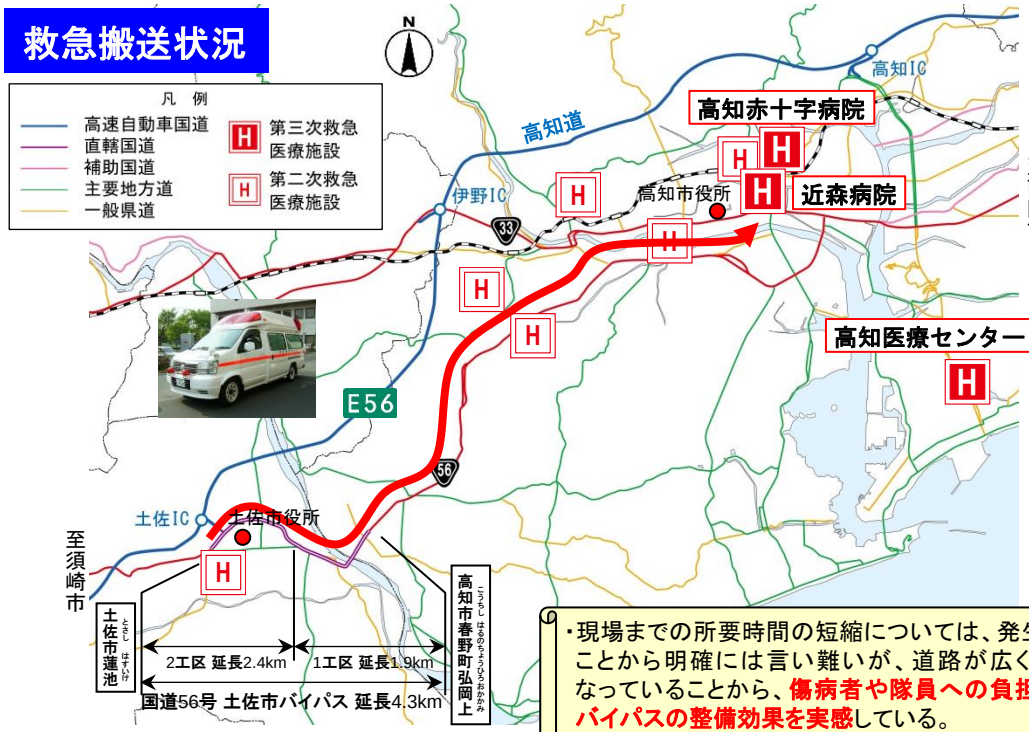


高知市から土佐市への通勤・通学者推移



資料：H12・H17・H22・H27国勢調査　（※ H12・H17は春野町含む）

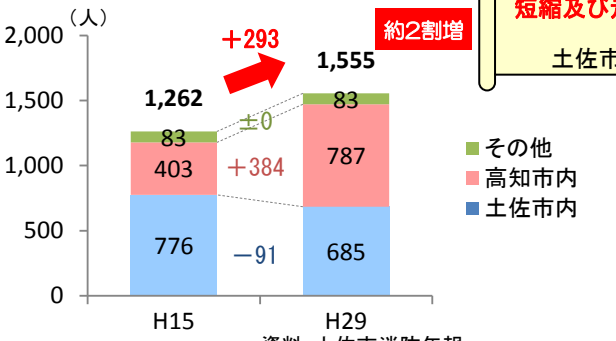
救急搬送状況



・現場までの所要時間の短縮については、発生場所が異なることから明確には言い難いが、道路が広くなり走りやすくなっていることから、**傷病者や隊員への負担が少なくなり、バイパスの整備効果を実感**している。
・バイパスについては片側2車線で舗装状態もよく、**緊急走行時も運転がしやすい**。また、傷病者にとっても**搬送時間の短縮及び走行中の乗り心地も改善**されメリットが大きい。

土佐市消防本部　（H31.2　ヒアリング結果）

救急搬送先の変化

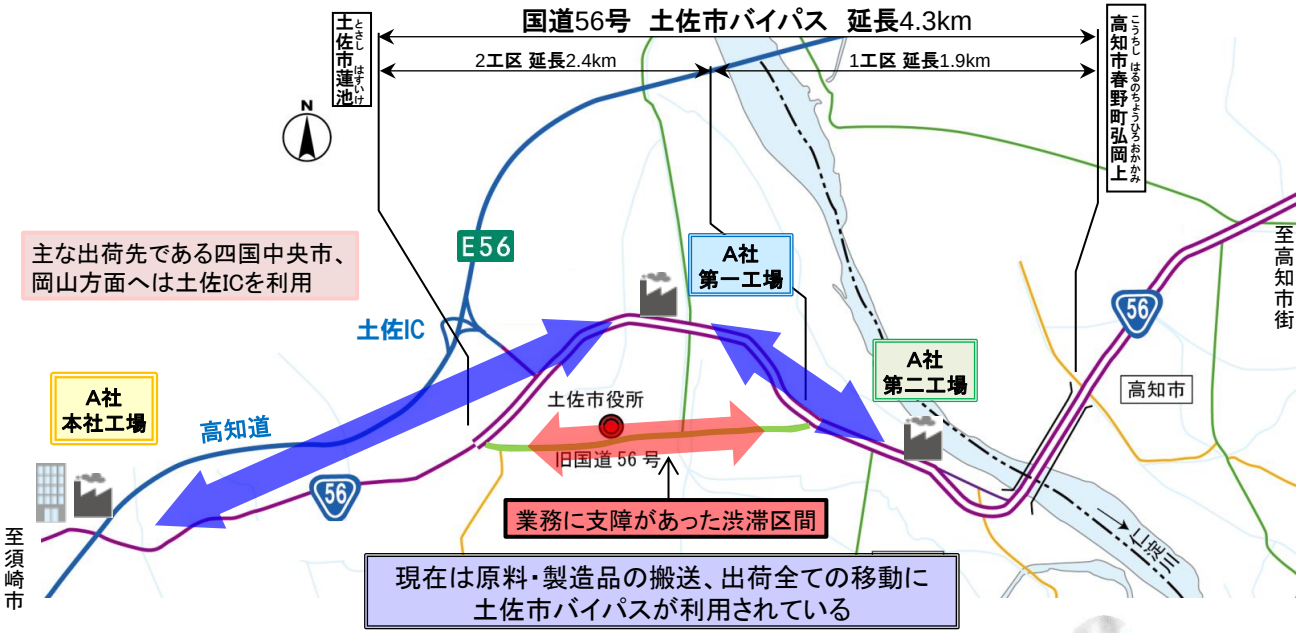


資料：土佐市消防年報

4. 事業効果の発現状況　地場産業【紙産業】を始めとする経済活動の支援

・土佐市バイパスは、周辺に立地する紙産業関連企業の工場間輸送、業務移動に利用され、供用前に比べ、**所要時間が大きく短縮し、安全性・確実性が向上**。
・土佐市バイパスの4車線整備以降、紙製品の出荷額は増加傾向にあり、**土佐市の地域経済を支えている**。

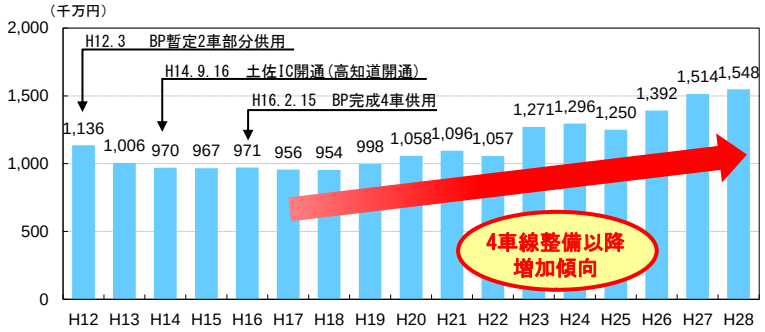
紙産業活動の効率化　（バイパス利用事例）



・土佐市バイパスは、原材料（原紙、液剤）の輸送などで毎日利用しています。
・土佐市バイパスができる前の**旧国道56号はひどい渋滞で、30～40分かかることもあり、業務にも支障**をきたしていました。
・しかし、バイパス整備によって、大幅な時間短縮に加え、原料・製造品の**貨物輸送の安全性・確実性が向上**し、さらに（高知自動車道）土佐ICへのアクセスもよくなったため、四国中央市、岡山方面への輸送も時間短縮され、**業務全体の効率化**につながっています。
・また、当社従業員については、以前より**土佐市以外からの通勤者が増えています**。

沿線地区の紙産業関連企業関係者
（ H31.2　ヒアリング結果）

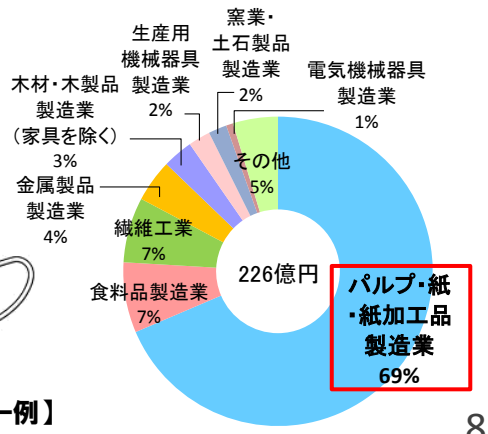
製造品出荷額の推移（パルプ・紙・紙加工品製造業）



資料：工業統計調査（土佐市）

【土佐市で製造されている紙製品の一例】

土佐市の工業製品別出荷額（H28）

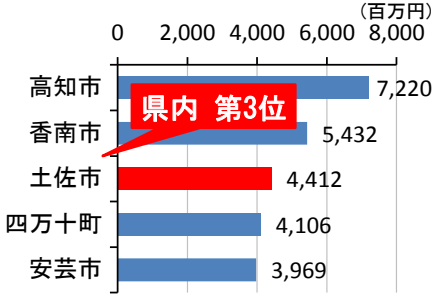


資料：工業統計調査

4. 事業効果の発現状況　地場産業【農業】活動の支援

・土佐市の基幹産業である農業の生産品出荷にバイパスが利用され、**地域産業活動に貢献**。
・土佐市バイパス整備で慢性的な渋滞が解消し、集出荷場へのアクセス向上により**農産物の集出荷効率が向上**。

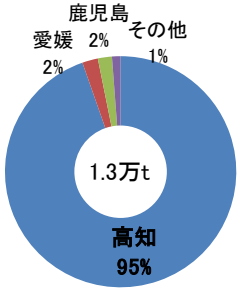
市町村別農業生産額（上位5位）



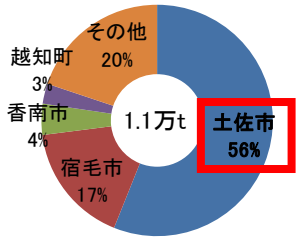
出典：平成27年度市町村内総生産
高知県統計課

土佐文旦の生産量

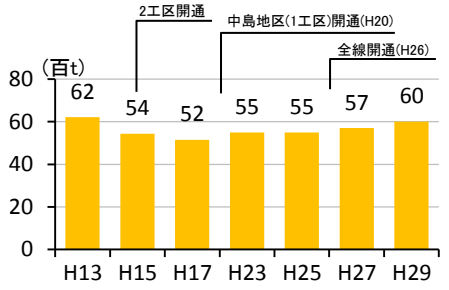
南国土佐で生まれたみかんの王様、土佐文旦。高知県を代表するフルーツです。
味はもちろん香りの良さにも定評があります。



出典：平成28年産特産果樹
生産動態等調査



出典：高知県農業の動向
（平成30年度）



出典：H13～H17＿高知県統計書
H23～H29＿高知県農業の動向

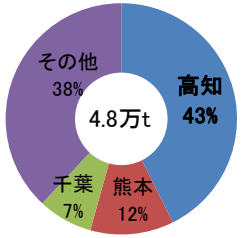
集出荷効率の向上

・土佐市の特産品である「文旦」「ショウガ」は、戸波集出荷場に集められ、高知市の園芸流通センターに運ばれ、全国各地に出荷されています。
・土佐市バイパスの整備により、**運送時間の短縮が図られ、大型トラックが狭い旧国道を通る必要がなくなったことから、安心して走行できる**ようになりました。

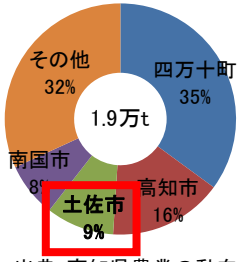
JA高知県　とさし営農経済センター
（令和元年8月　ヒアリング結果）

●：集出荷場（土佐市内7箇所）

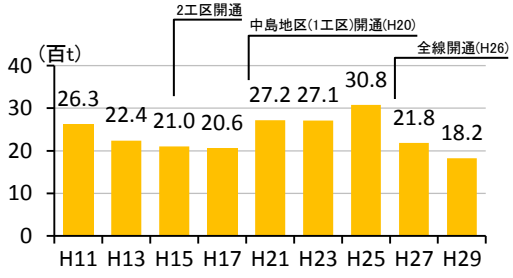
ショウガの生産量



出典：平成29年産野菜生産
出荷統計



出典：高知県農業の動向
（平成30年度）

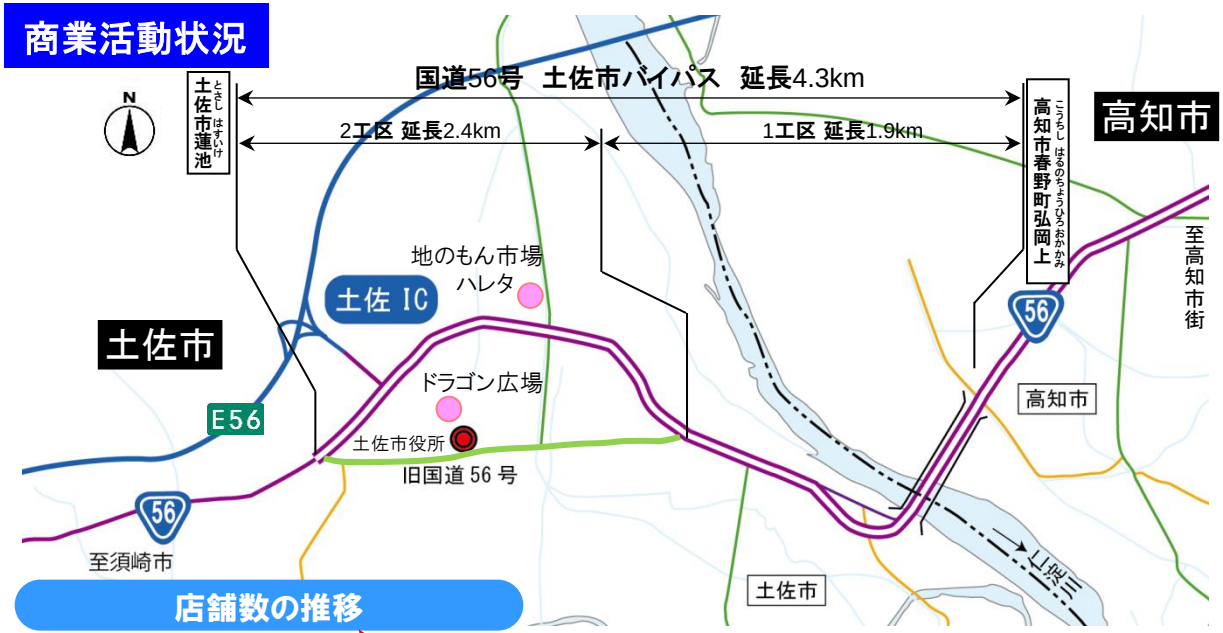


出典：土佐市調べ（年度）

【参考】事業による波及効果　地域のにぎわい創出

・土佐市バイパスの整備に伴い、**沿線地区の店舗数、商品販売額は増加傾向**。
・土佐市バイパス周辺には**地場産品の直販所などもオープン**している。

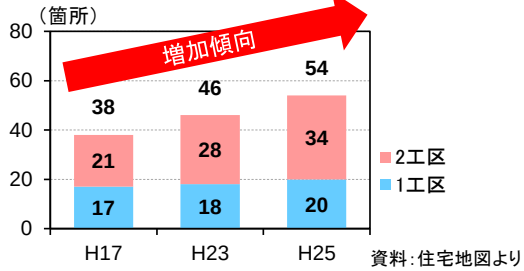
商業活動状況



・土佐市バイパス開通後、アクセス性が良くなったことで**来客数が増加**した。その後は、客数減にはならずに、安定した集客状況が続いている。
・バイパスが良くなったことで、**高知市（春野等）からのお客さんが増えている**と思う。
また、夕方の混雑緩和が、来店集客につながったと思います。

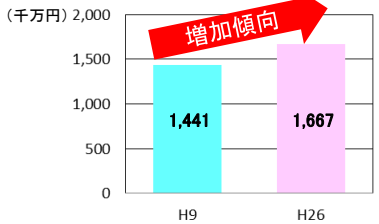
沿線地区の
スーパーマーケット店長
（H31.2　ヒアリング結果）

店舗数の推移



資料：住宅地図より

商品販売額の状況



資料：商業統計

地場産品の直販所

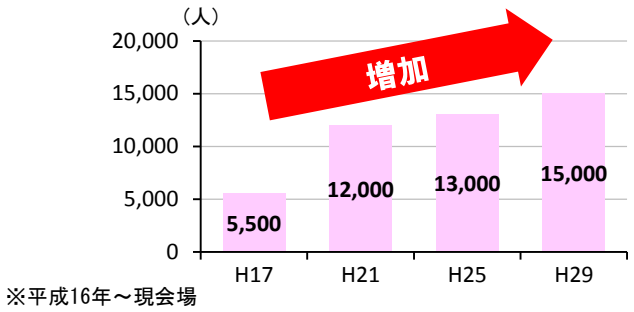
【参考】事業による波及効果　イベントの活性化

・土佐市バイパスの整備により、市街地を南北に貫く県道土佐伊野線の交通を土佐市バイパスに迂回させることが可能となったため、毎年８月開催の大綱まつりの開催場所が、**H16年より広い会場に変更され新たな催しが可能となった**。

・会場の変更で見物可能なスペースも拡大しており、大綱まつりの**来場者数は年々増加**。

大綱まつり開催場所の変化

大綱まつり来場者数の推移



※平成16年～現会場

県外観光客入込・動態調査報告書（高知県）

見物客スペースの変化

イベント内容の充実

■大綱（おおつな）まつりの由来

大綱引きは、江戸時代の農業用水路建設時に大縄を引かせて、志気を高めた故事に由来する。

現在では、長さ100m、胴回り1.8m、重さ2tの大綱を引き合い、力を競う勇壮豪快な夏祭りとして、毎年８月第３土曜日に開催している。

資料：土佐市統計書

５．今後の事業評価の必要性等

■ 今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性

◯土佐市バイパスの完成供用により、沿道地域の生活環境の改善、交通流の円滑化と交通安全の確保、都市間及びインターチェンジのアクセス性向上など、「地域の文化・経済・産業の発展に寄与」という土佐市バイパスの整備目的に見合った効果が確認できていることから、今後の事業評価および改善措置の必要性はない。

■ 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

◯事業前・事業後の整備効果に関して統計指標、ヒアリング等を用いて、整備効果の確認が出来ている。
◯現時点では、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性は見られない。